A photograph of a field of red spider lilies (Lycoris radiata) in bloom. The flowers are bright red with long, thin petals. In the background, several people are visible, some wearing white protective suits, suggesting a research or agricultural setting. The scene is outdoors with hills and a fence in the distance.

TD研究の心得(2): 「ステークホルダーの階層性と 研究者の立ち位置」

近藤昭彦 (千葉大学CEReS)

人の意識する世界とは…意識世界

人が関係性を持ち、考え方を構築していく範囲（近藤の造語）

農村的世界の人の意識世界
都市的世界の人の意識世界

分断の存在



二つの世界

2011年4月7日農村計画学会2011年度春期大会シンポジウム
会員コメント寄稿文

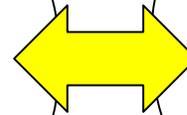
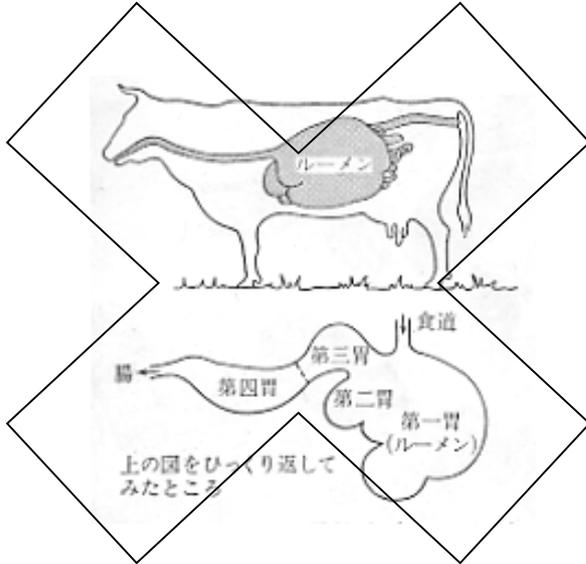
．．． 生態学者の故栗原康は生態系を①緊張のシステム、②共栄のシステム、③共貧のシステムに分類している。人間社会に敷衍すると、石油に依存する共栄のシステムは破綻しかかかっている。残された選択肢は共貧のシステムと緊張のシステムだが、農山漁村における“共貧のシステム”（市場経済のもとでの“貧”であり、“不幸”ではない）と、世界に顔を向けた高度管理型都市の“緊張のシステム”を相利共生（片利共生ではなく）させることはできないだろうか。重要な点は両者を自由に行き来できる精神的習慣を現代人が持つことである。（3月25日記）



栗原 康 著 有限の生態学 – 安定と共存のシステム – 岩波新書949 (絶版)

- × 共栄のシステム 牛のルーメン 石油文明
- 共貧のシステム フラスコの中のマイクロコズム 農村的世界
- 緊張のシステム 惑星間航行宇宙船 都市的世界

共貧と緊張、我々はどちらを選ぶべきか、ではなく
共貧のシステムと緊張のシステムの共存は可能か？



二つの世界を行き来できる精神的態度

ステークホルダーの階層性と世界観

世界観

ローカル

Pragmatic

ステークホルダー



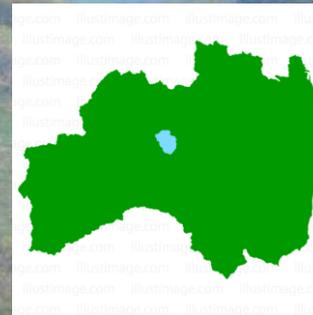
市民

視点

個別性

(農村)

リージョナル



地方
政府

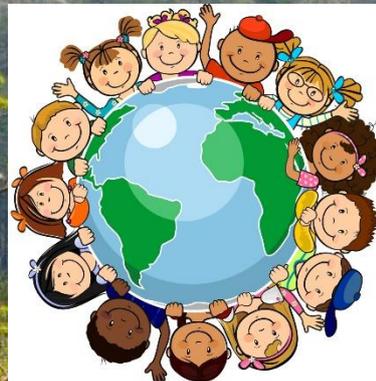
個別性

(都市)

グローバル

(ユニバーサル)

Normative



国家
世界

普遍性

ローカルとグローバルを巡る世界観の違い



グローバルな環境問題＝脳内環境問題

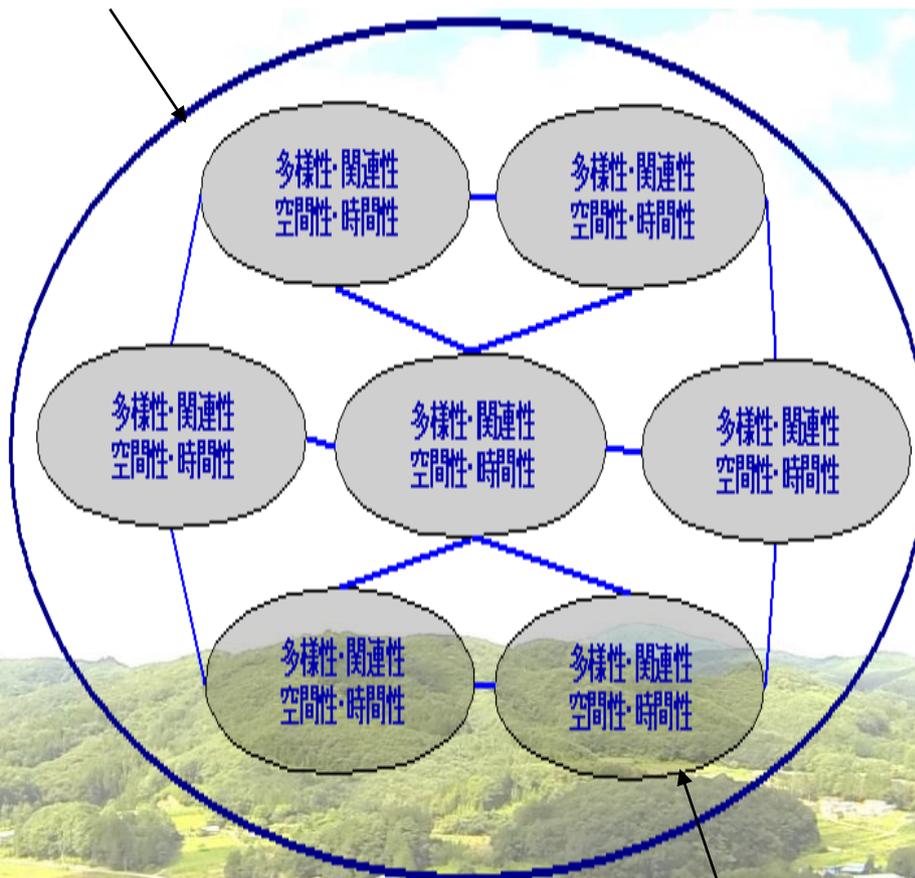
A

世界は、相互作用する多数の素過程から構成されており、全体としてシステムとして機能する。



未来を予測し、より良い未来に向かう(バックキャスト)

地球システムを良好な状況に導くための、普遍的な方法はある。



ローカルな環境問題＝リアルな環境問題

B

世界は、相互作用する多数の地域から構成されており、グローバルはフレームとして捉えられる。



地域が良くなることで、地域の集合体としての世界が良くなる。

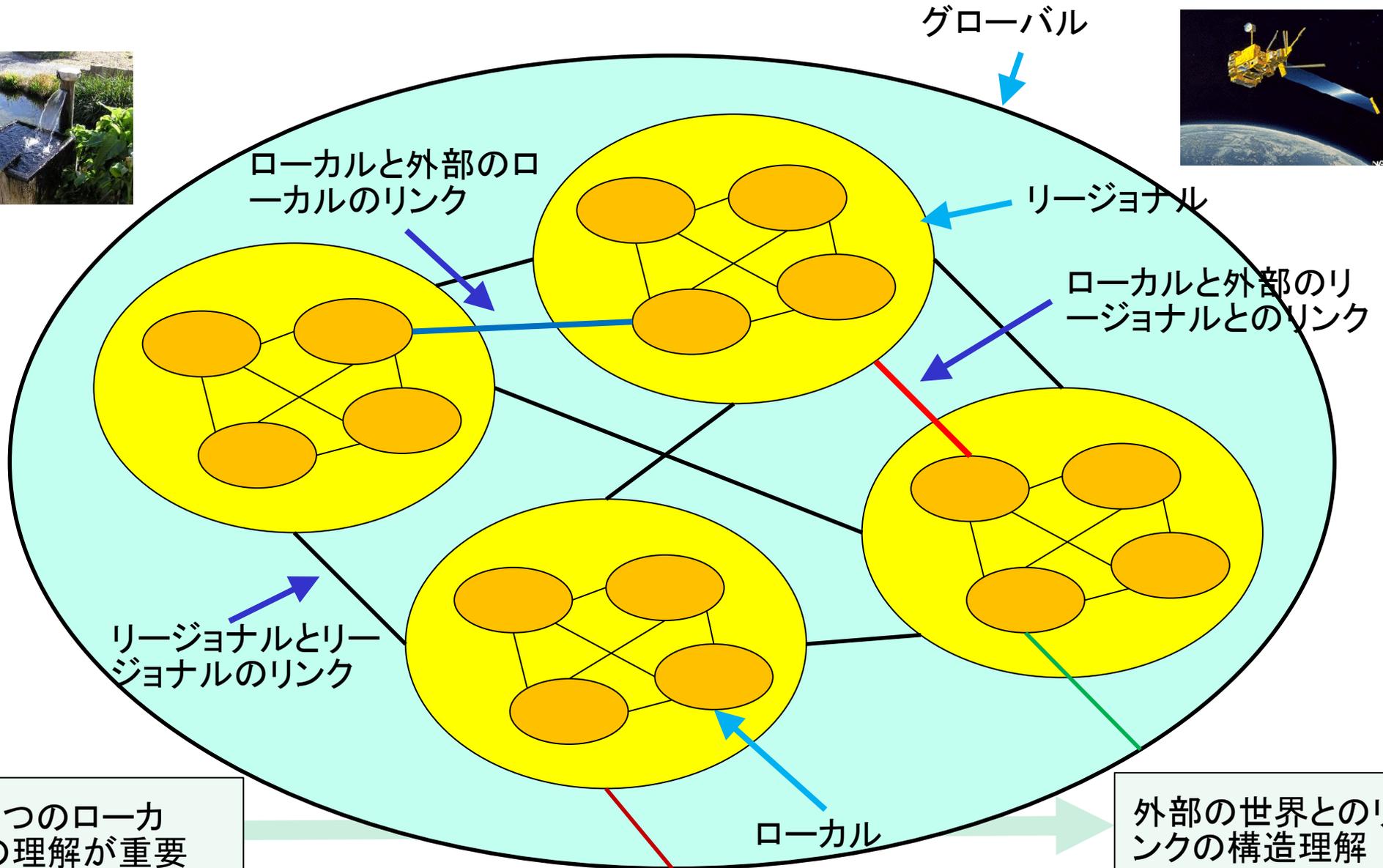
現在から未来を展望する。

SDGs

【閑話休題】

本書は、「人類にとっての生存基盤である環境」とか、「人類が共通に解決すべき地球環境問題」など、大上段に構えたところから環境と社会を語らない。むしろ、こうした語り口は、「脳内環境問題」として揶揄される。(関礼子ほか、「環境の社会学」、有斐閣アルマ、2009)

【Bの世界観】 世界(グローバル)は多数の地域(ローカル、リージョナル)から構成され、それぞれのローカル、リージョナルは他のローカル、リージョナルと関係性(リンク)を持つ。リンクには経済リンク、政治リンク、宗教リンク、人種リンク、等々様々なリンクがある(鬼頭、1996)

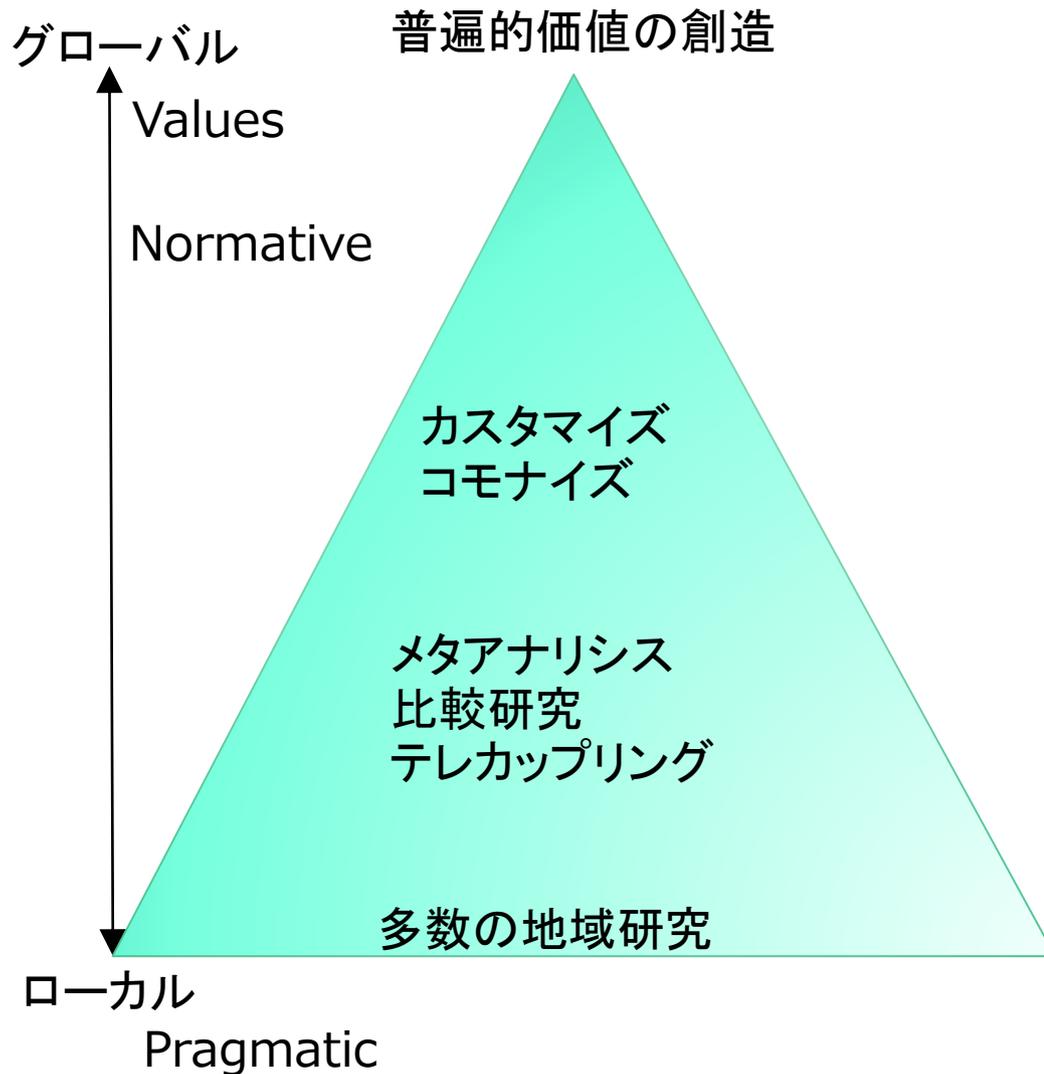


ひとつのローカルの理解が重要

外部の世界とのリンクの構造理解

地域固有の事情の理解を役立てる

- 地域研究は事例研究か？事例研究こそ重要。
- ローカルを100個も集めれば、グローバルになる。



より上位の課題にアプローチ
・都市・農村関係、
近代文明のあり方



メタアナリシス、比較研究
地域ごとの研究を統合し、
より高い見地から解析、分析
・地域ごとの空間的、歴史的特徴
の比較、分析



特定の課題に対する多数の研究
・(例)閉鎖性水域の富栄養化

課題の変質

【汚染が深刻な印旛沼流域の例】

- 都市近郊の閉鎖性水域

- 同様の特徴を持つ水域

たくさんのローカルがある

手賀沼、霞ヶ浦、琵琶湖、...
共通することから異なる事情がある

- ローカルの経験を共有(シェア)
メタ解析、比較研究

- より上位の課題へアプローチ

⇒ 都市・農村関係

⇒ 近代文明のあり方

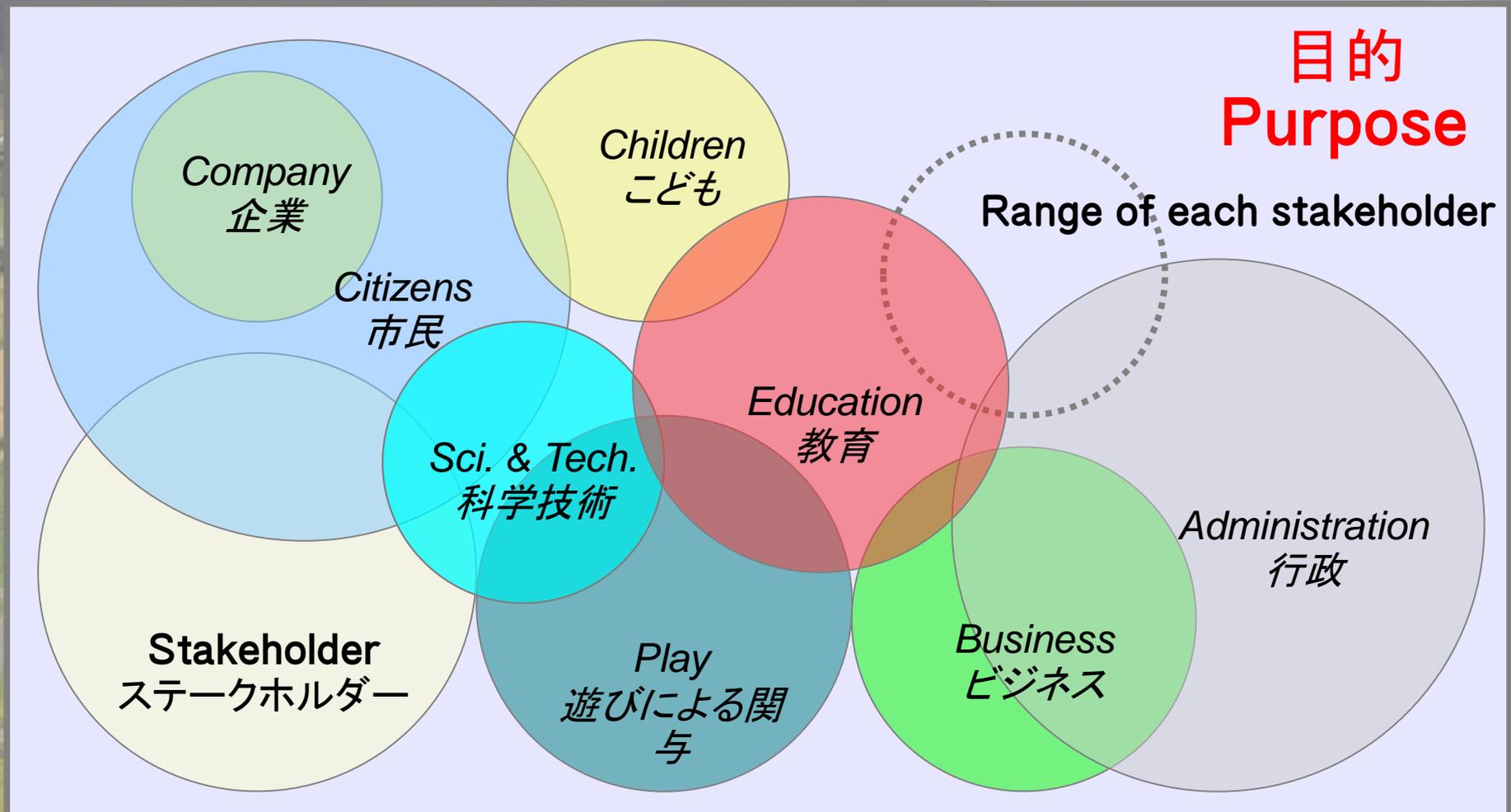
ローカルとグローバルのリンク
ステークホルダーとともに



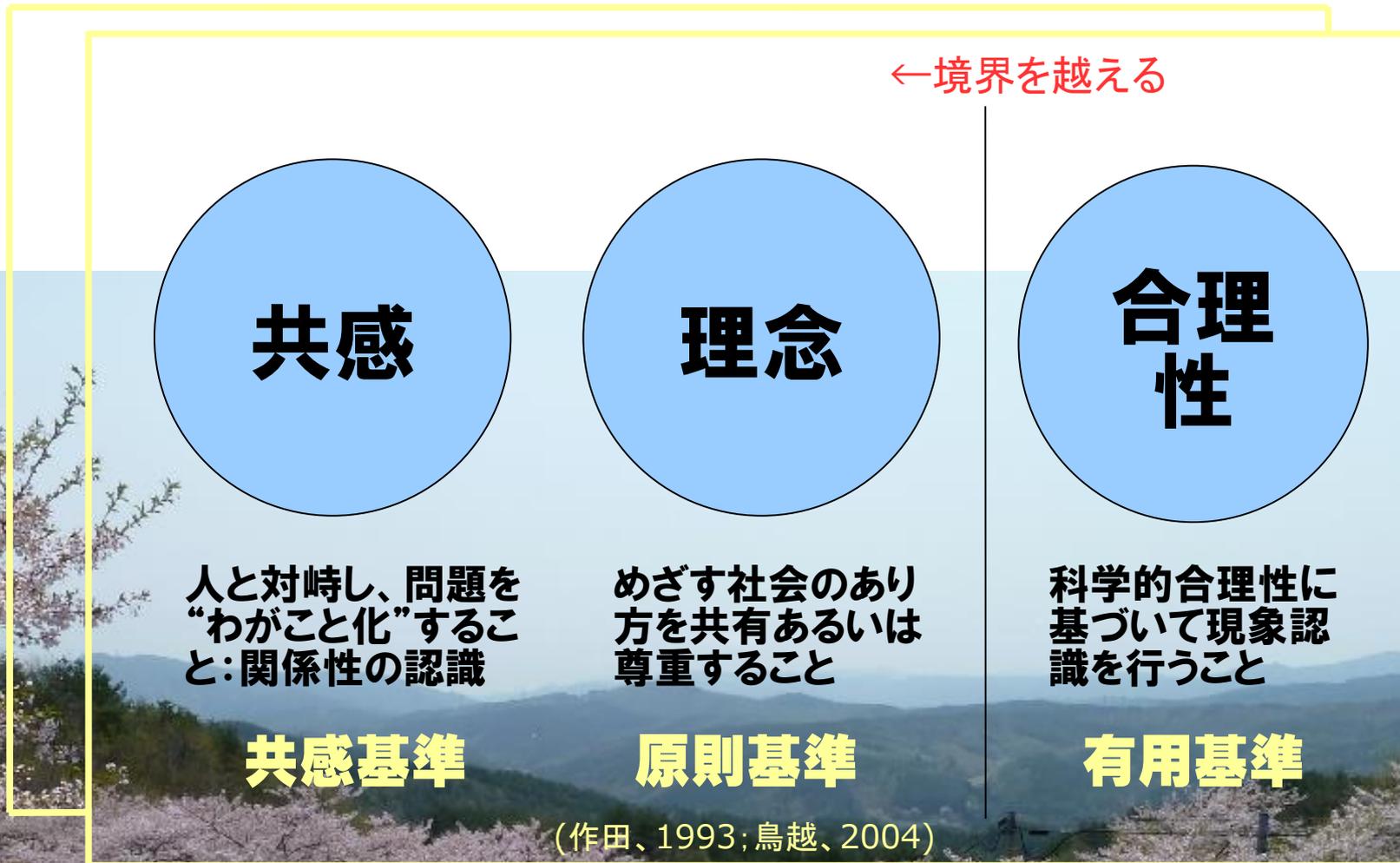
ローカル・レベルにおける科学者の立ち位置

- 「問題の共有」ではなく、「問題の解決の共有」
- 目的の達成を目指す営みの中で役割は相対化される
- Transformation 新しい社会への変革がSDGsの肝

Trandisciplinarity (超学際) のひとつの考え方

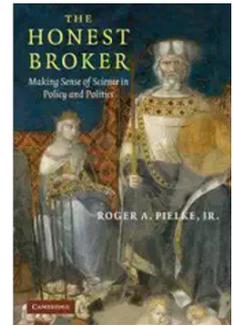


現実的な解決は諒解、そのために信頼が必要 信頼形成に必要な三つの観点



ある共感、理念、合理性を共有する枠とは別の枠

課題解決のためにFEサイエンティストは どの科学者（研究者）になるか、なれるか



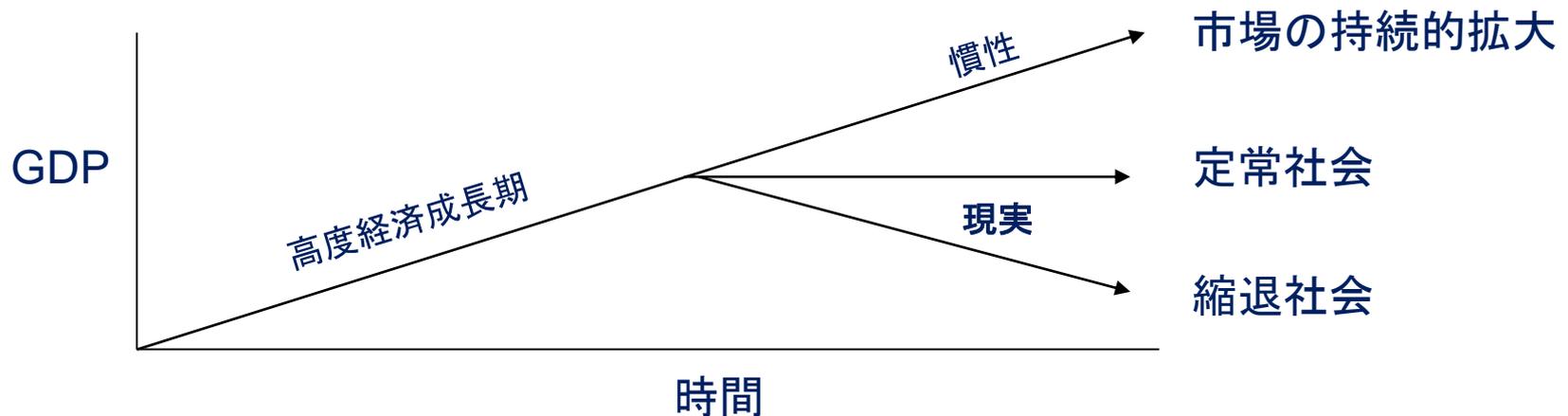
科学観

		View of science	
		Linear model	Stakeholder model
民主主義観	View of democracy	<p>① 純粋な科学者</p> <p>Pure Scientist</p> <p>政策には関与せず 研究の成果を提示</p>	<p>③ 論点主義者</p> <p>Issue Advocate</p> <p>研究成果をもとに特定の 政策を提言、主張</p>
	Schattschneider	<p>② 科学の仲介者</p> <p>Science Arbiter</p> <p>研究成果を政策に提言</p>	<p>④ 複数の政策の 誠実な仲介者</p> <p>Honest Broker of Policy Alternative</p> <p>研究に基づき可能な複数の 政策を提言</p>

(Pielke,2007、小野、2016をベースに作成)

SDGs/FE Scientistsのための評価基準

- 成果基準
 - ・ 論文数、獲得予算（外形基準）
 - ・ 研究の価値の評価
 - 貢献基準
 - ・ 学術に対する貢献
 - ・ 社会に対する貢献
 - 未来基準
 - ・ 持続可能社会に対する考え方
- 今はこれだけ



「あなた方が話すことは、お金のことや永遠に続く経済成長というおとぎ話ばかり」
(グレタ・トゥーンベリさん演説全文より、nhk.or.jp)



小さな世界
たくさんの世界
人間らしく生きる
誰一人とりのこさない
学術の力
ポエムの力

双葉町の間貯蔵施設建設
用地から山木屋（旧避難区
域）に移植された彼岸花